

都内の日本語学校に在学している留学生の HIV と結核に関するリスク意識、知識及び保健医療サービスへのアクセスに関する研究

「外国人に対する HIV 検査と医療サービスへのアクセス向上に関する研究」班

研究代表者 北島 勉 杏林大学総合政策学部教授
研究分担者 沢田 貴志 神奈川県勤労者医療生活協同組合港町診療所所長
宮首 弘子 杏林大学外国語学部教授
研究協力者 Prakash Shakya 杏林大学リサーチレジデント

研究要旨

近年、外国人留学生が増加しており、平成 29 年度においては、26 万人を超えた。そのうちの約 3 割は日本語学校に在籍している。多くの場合、日本語学校は出身国から日本に入国するための入り口であり、気候や文化の違いへの対応や、多くの学生が長時間のアルバイトに従事することなどから、心身ともに厳しい状況にある学生が多いことが推察される。特に、国際的な移住は HIV や結核などの感染症のリスクを上昇させる。しかし、受入国の保健医療サービスは、留学生を含む移民にとって使い勝手が良いとは限らない。HIV や結核の予防、診断、治療サービスに適切にアクセスできるようにすることが重要であるが、HIV や結核関連のサービスをより多くの留学生にとって使いやすくするためにどのような改善が必要かを検討するための情報は乏しい。

そこで、本研究では、東京都内の日本語学校 17 校から協力を得て、それぞれの学校に在籍している留学生を対象に、自記式質問票による調査を実施し、HIV に関する知識、感染リスクに対する意識、HIV 検査などの保健医療サービスの利用状況と、それらに関連する要因について調べた。

中国（323 人）、ベトナム（288 人）、ネパール（158 人）、合計 769 人から回答を得られた。HIV に関する知識については、感染経路において一部十分理解されていない点があった。HIV 知識スコアと HIV 感染リスクスコアを算出し、それぞれに関連する要因を重回帰分析で検討した。HIV 知識スコアについては、性別が「その他」、出身国がネパール、HIV 感染リスクスコア、結核に関する知識スコア、日本での HIV 検査受検経験との間に有意な正の関連が認められた。HIV 感染リスクスコアについては、女性、出身国がネパールかベトナム、既婚、結核の主観的罹患リスクスコアが低い、日本での HIV 検査受検に関心がないことと有意な負の関連が認められた。日本での HIV 検査受検に関連する要因としては、出身国で HIV 検査を受けた経験、日本での HIV 検査が無料匿名で実施されていることに関する知識、HIV 知識スコアが有意に関連していた。

今後は、これらの要因を精査しつつ、留学生を含む外国人が HIV 検査や治療サービスを利用しやすくするための情報提供やサービス提供のためのプログラムを検討する。

A. 研究目的

世界的に、移住することは HIV や結核のような感染症のリスクの上昇に関係している。しかし、移民は HIV 検査や結核診断及び治療を含む保健医療サービスへのアクセスが良くない。保

健医療システムの要因、保健医療サービスの提供者の要因、移民の個々人がもつ要因などが、それらのサービス利用の障壁になっている可能性がある¹⁾。

平成 29 年度、267,042 人の留学生が日本で勉強をしており、そのうち、78,658 人は日本語学校に在籍していた。その出身国上位 3 カ国は、中国、ベトナム、ネパールであった²⁾。これらの国々における HIV や結核の感染割合は、日本に比べると相対的に高く、その理由の一つとして予防、診断、治療サービス利用の遅れがある。その要因としては、社会経済的問題、言語的問題、日本での生活状況、出身国の結核や HIV の有病率が高いこと、危険な性行動、支援の欠如、スティグマ、保健医療サービスに関する知識の欠如などが考えられる。そのため、日本にいる留学生が利用しやすい HIV や結核の予防及び治療サービスの仕組みを早急に調整していく必要がある。しかし、留学生の HIV や結核に関連する保健医療サービスへのアクセスに関するデータは不足している。

そこで、本研究は、東京都内の日本語学校に在籍している留学生を対象に、(1) HIV/エイズと結核に関する知識と態度に関連する要因、(2) HIV と結核感染の主観的リスクに関連する要因、(3) HIV 検査と結核の診断及び治療へのアクセスに関連する要因を明らかにすることを目的とする。

B . 研究方法

研究対象は、東京都内の日本語学校に在籍している中国、ベトナム、又はネパールの出身学生である。

研究デザインは横断研究である。

都内でも日本語学校の多くが所在している新宿区の日本語学校に対して、新宿区保健所から、書面にて本研究班と研究主旨について紹介をしていただいた後に、各日本語学校へ調査協力を依頼した。また、台東区内の日本語学校にも調査協力を依頼した。調査協力を依頼した 33 校中 17 校から協力が得られた。調査への協力が得られた学校には、調査の主旨を対象学生に伝えてもらい、学校側が指定した日時に学校内の教室を借りて、研究者らが自記式質問票による調査を実施した。その際、昨年度実施した、留

学生を対象とした調査で得られた情報も参考に

表 1 . 調査協力者の基本属性

属性	人数/値	%
出身国		
中国	323	42.0
ベトナム	288	37.5
ネパール	158	20.5
平均年齢 (SD)	22 (3)	
性別		
男性	395	51.4
女性	363	47.2
その他	2	0.3
婚姻状況		
未婚	720	93.6
既婚	37	4.8
その他	5	0.7
母国での学歴		
中学校まで	10	1.3
高校	444	57.7
大学	271	35.2
大学院	27	3.5
その他	3	0.4
平均在留滞在月数 (SD)	11.1(6.4)	
ビザの種類		
学生	751	97.7
配偶者	7	0.9
長期滞在者	3	0.4
その他	1	0.1
就業状況		
レストラン	236	30.7
コンビニ/スーパー	81	10.5
ホテル業	47	6.2
食品業	38	6.1
工場	48	4.9
無職	200	26.0
その他	94	12.2
居住形態		
1人暮らし	212	27.6
友人と同居	486	63.2
家族と同居	29	3.8
親戚と同居	19	2.5
その他	15	2.0
健康保険		
保険証あり	742	97.1
保険証なし	22	2.9

した³⁾。

質問票では、(1) HIV/エイズと結核に関する知識と態度、(2) HIV と結核の主観的感染リスク、(3) HIV 検査と結核診断と治療へのア

クセス、(4)人口社会的特徴、(5)移住に関連した特徴、(6)健康行動、について聞いた。

HIV/エイズに関する知識については、12の質問の正答数によってHIV知識スコアの算出した(12~24点)。また、HIVに対する主観的な感染リスクについては、7つの質問から、感染リスクスコアを算出した(7~43点)。点数が高いほど、感染リスクが高いと感じていることである。

質問票は、英語で作成し、それを中国語、ベトナム語、ネパール語に翻訳した。

調査協力者に、回答した質問票を封筒に入れ、封をしてもらい、教室で回収した。回収時に、謝品として、QUOカード(500円)1枚を提供した。

表2 . HIVに関する知識

質問	正解率(%)
全ての性交渉でコンドームを適切に使用すれば HIV を予防することができますか？	54.2
健康的に見える人でも HIV に感染している可能性があると思いますか？	78.3
蚊に刺されて HIV に感染をする可能性がありますか？	47.5
HIV 感染者と一緒に食事をして HIV に感染することがありますか？	70.0
HIV に感染した妊婦は体内の子どもにも感染を起こしますか？	83.9
HIV に感染した女性は母乳を通じて新生児感染を起こしますか？	51.5
性行為を避けることによって HIV 感染から身を守ることができますか？	35.5
感染している人と手をつなぐことで HIV に感染することが可能ですか？	88.3
使用済みの針と注射器を使用することで HIV に感染しますか？	90.5
HIV に感染した人から輸血は HIV 感染を起こしますか？	93.9

調査は、平成 29 年 9 月から 12 月まで実施した。

(倫理面への配慮)

本調査の実施に際し、杏林大学大学院国際協力研究科研究倫理委員会から承認を得た(承認番号 23)。調査を開始する前に、調査の主旨を紙面にて説明し、調査への参加は任意であること、参加しなくても不利益を被ることはないことを伝えた。

C . 研究結果

1. 調査協力者の基本属性

表 1 に調査協力者の基本属性を示した。769 人から回答を得られた。出身国別では、中国 323 人(42.0%)、ベトナム 288 人(37.5%)、ネパール 158 人(20.5%)であった。平均年齢 22 歳、男性 395 人(51.4%)、未婚 720 人(93.6%)、母国での学歴については高校卒が最も多く 444 人(57.7%)であった。日本には平均 11.1 ヶ月間滞在しており、学生ビザで滞在している者が 751 人(97.7%)であった。レストランで働いている者が 236 人(30.7%)と最も多い一方で、無職の者も 200 人(26.0%)であった。居住形態では、友人と同居している者が 486 人(63.2%)と最も多かった。健康保険については、742 人(97.1%)が加入していた。

2 . HIV に関する知識について

AIDS と呼ばれる病気について聞いたことがあると回答した者は 654 人(86.4%)、近い親戚や近い友人で HIV に感染したり AIDS で亡くなった人はいると回答した者は 44 人(5.8%)であった。

HIV に関する知識に関する質問への回答分布を表 2 に示した。使用済みの針や注射器、輸血からの感染可能性、手をつなぐといった接触により感染することがないという問への正解率は高かったが、性行為やコンドーム使用、母乳、蚊による感染可能性に関する正解率は低かった。

これらの質問への回答から HIV 知識スコアを算出したところ、平均値が 20.1(±2.0)であった。

3. HIV 感染リスクに関する認識について

HIV に感染するリスクについて直感的にどう思うかという質問に対し、「まあまああり得る」95人(12.6%)、「とてもあり得る」9人(1.2%)、「非常にあり得る」6人(0.8%)であり、感染の可能性があると感じている者は110人(14.6%)であった。「自分がHIVに感染することは絶対にない」ということについては、「強くそう思わない」141人(18.9%)、「そう思わない」123人(16.5%)、「どちらかというそう思わない」126人(16.9%)と、半数以上が感染する可能性があるとは考えていた。また、HIVに感染するという事を「考えたこともない」のは453人(61.1%)、「滅多に考えない」195人(26.3%)であった。

これらの質問への回答から HIV への感染リスクスコアを算出したところ、平均値が18.1(±5.4)であった。

4. HIV 検査へのアクセスについて

日本における HIV 検査に関する知識や主観的アクセスへの回答を表3に示した。

表3. 日本での HIV 検査への主観的アクセス

質問	「はい」の割合
検査を受ける十分な機会がある	64.9%
検査をどこで受けられるか知っている	14.3%
無料匿名で受けられることを知っている	6.6%
今後、日本で HIV 検査を受けることに関心がある	55.2%
HIV 検査を受けたことがある	4.7%

HIV 検査を受ける十分な機会があると回答した者は64.9%、検査を受けることに関心がある者は55.2%と半分以上であったが、検査をどこで受けられるかを知っていたのは14.3%、無料匿名で受けられることを知っていたのは6.6%と低かった。実際に、日本で HIV 検査を受けたことがあると回答した者は35人(4.7%)であった。

HIV 検査を受けやすくするために大切なこと

としては、「無料」279人(40.1%)、「厳密な守秘」238人(34.2%)、「通訳/言葉の支援」230人(33.1%)、「駅から行きやすい」81人(11.7%)、「週末に受けられる」77人(11.1%)、「夕方に受けられる」28人(4.0%)、「その他」13人(1.9%)であった。なお、出身国で HIV 検査を受けたことがあると回答した者は192人(25.7%)であった。

表4. HIV の知識スコアに関連する要因

変数		SE	p
年齢	0.03	0.03	0.424
性別			
男性	-0.13	0.16	0.420
女性	3.07	1.50	0.041
その他			
出身国			
中国	0.80	0.32	0.031
ネパール	0.39	0.22	0.075
ベトナム			
婚姻状況			
未婚	-0.61	0.47	0.193
既婚	-1.91	1.07	0.074
その他			
出身国の学歴			
高校まで	0.37	0.21	0.083
大学以上	-0.26	0.45	0.559
その他			
居住形態			
友人と同居	-0.03	0.36	0.932
家族/親戚と同居	-0.12	0.21	0.583
一人暮らし	-0.35	0.57	0.538
その他			
医療へのアクセス			
ある			
ない	-0.24	0.17	0.156
HIV リスクスコア	0.04	0.02	0.009
結核知識スコア	0.10	0.02	<0.001
出身国での HIV 検査			
受検経験あり			
受検経験なし	-0.16	0.19	0.396
日本での HIV 検査			
受検経験あり			
受検経験なし	0.96	0.44	0.030
日本で HIV 検査受検			
関心ある			
関心ない	0.24	0.36	0.510

5. HIV の知識に関連する要因

HIV の知識スコアに関連する要因に関する重

回帰分析の結果を表 4 に示した。性別が「その他」、出身国がネパール、HIV 感染リスクスコア、結核知識スコア、日本での HIV 検査受検経験がないことが、HIV の知識との間に正の関連が認められた。

6. HIV 感染リスクに関連する要因

HIV 感染リスクに関連する要因に関する重回帰分析の結果を表 5 に示した。

女性、出身国がネパールかベトナム、既婚、結核の主観的罹患リスクが低い、日本での HIV 検査受検に関心がない群で、主観的 HIV 感染リスクスコアが有意に低かった。

7. HIV 検査受検に関連する要因

日本で HIV 検査を受検するか否かに関連する要因に関するロジスティック回帰分析の結果を表 6 に示した。

出身国で HIV 検査を受けた経験がない群はある群に比べて 0.09 倍、日本での HIV 検査が無料匿名で実施されていることを知らない群は知っている群に比べて 0.06 倍、HIV に関する知識スコアが 1 点上がるごとに 0.78 倍、日本で HIV 検査を受検しやすいということであった。他の変数は HIV 検査受検との間には関連がなかった。

D. 考察

東京都内の日本語学校 17 校に通う中国、ベトナム、ネパール出身の学生 769 人を対象に、HIV に関する知識、主観的リスク、HIV 検査の利用に関する意識や経験について調べた。

平均年齢 22 歳で、平均の日本滞在期間が 11 ヶ月と、比較的若く、日本に来てからそれほど時間が経過していない集団であった。

HIV に関する知識については、感染を予防する方法として、性行為やコンドームの使用に関する認識が低い傾向があった。重回帰分析の結果、性別が「その他」、ネパール出身、HIV 感染リスクスコア、結核知識スコア、日本での

表 5. HIV 感染リスクスコアに関連する要因

変数		SE	p
年齢	0.05	0.08	0.588
性別			
男性			
女性	-0.17	0.40	0.003
その他	-5.74	3.47	0.098
出身国			
中国			
ネパール	-7.08	0.69	<0.001
ベトナム	-4.29	0.53	<0.001
婚姻状況			
未婚			
既婚	-2.75	1.16	0.018
その他	4.07	2.16	0.060
出身国の学歴			
高校まで			
大学以上	-0.24	0.51	0.643
その他	1.60	1.04	0.126
飲酒習慣			
週 1 回以上			
週 1 回未満	0.46	0.63	0.462
飲まない	0.48	0.61	0.431
主観的健康観			
良い			
普通/良くない	0.69	0.41	0.091
健康保険			
ある			
ない	-0.96	1.15	0.403
受診時の医療通訳			
必要			
不要	0.58	0.42	0.171
結核罹患リスク			
高い/普通			
低い	-2.34	0.47	<0.001
日本での HIV 検査施設			
知っている			
知らない	-0.77	0.55	0.160
出身国での HIV 検査			
受検経験あり			
受検経験なし	-0.58	0.46	0.203
日本での HIV 検査			
受検経験あり			
受検経験なし	0.26	1.02	0.797
日本での無料匿名 HIV 検査			
知っている			
知らない	-0.63	0.87	0.468
日本での HIV 検査受検			
関心ある			
関心ない	-2.54	0.43	<0.001
日本語能力スコア	-0.13	0.06	0.030
HIV 知識スコア	0.09	0.10	0.347

HIV 検査受検経験が知識スコアと関連していた。

性別が「その他」の中にはゲイやトランスジェンダーなど、HIV 感染リスクが高い人々が多いため、HIV に関する情報を他のグループに比べてより多く収集しているためということも考えられる。

表 6 . 日本での HIV 検査受検に関連する要因

変数	AOR	95%CI	p
年齢	1.10	0.92, 1.31	0.588
性別			
男性			
女性	0.96	0.35, 2.59	0.931
出身国			
中国	0.66	0.11, 3.83	0.643
ネパール	0.37	0.10, 1.42	0.148
ベトナム			
婚姻状況			
未婚			
既婚	1.29	0.18, 9.10	0.798
出身国の学歴			
高校まで			
大学以上	1.04	0.29, 3.78	0.947
その他	1.75	0.16, 19.68	0.652
主観的健康観			
良い			
普通/良くない	2.05	0.75, 5.66	0.164
日本の HIV 検査施設			
知っている			
知らない	1.52	0.43, 5.39	0.521
出身国での HIV 検査			
受検経験あり			
受検経験なし	0.09	0.03, 0.28	<0.001
日本での無料匿名 HIV 検査			
知っている			
知らない	0.06	0.02, 0.20	<0.001
日本での HIV 検査受検			
関心ある			
関心ない	0.06	0.17, 1.76	0.318
HIV 知識スコア	0.78	0.62, 0.97	0.023
HIV リスクスコア	0.99	0.89, 1.10	0.888

AOR: Adjusted Odds Ratio

HIV 感染リスクスコアや結核知識スコアが高いことと HIV 知識スコアが関連していたこと

は、HIV 感染が身近と感じている人の方が HIV に関する知識が収集しやすいためと考える。また、結核知識スコアとの関連も、3 カ国とも結核高蔓延国であるため、HIV について情報収集をする際には結核に関する情報もついて来ることや、その逆のケースとして、結核の知識を得る過程で HIV の情報も入ってくるためということが考えられる。

日本での HIV 検査受検経験がない群の方の知識スコアが高かったということについては、HIV 知識スコアが高い群の方が感染予防に関する知識があるがゆえに感染リスクが低い群であるため、結果として HIV 検査を受けていないということも考えられる。しかし、両者の関係と、知識スコアと出身国との関連については、さらなる分析が必要であると考えられる。

HIV 感染リスクスコアについては、女性、ベトナムとネパールの出身者、既婚者、主観的に結核罹患リスクが低い、日本での HIV 検査受検に関心がない、群でスコアが低かった。中国出身者に比べて、ベトナムとネパール出身者の方が主観的な HIV 感染リスクが低い要因については、更に調べる必要がある。また、日本での HIV 検査受検に関心がない群でリスクスコアが低いのは、リスクが低いと感じているので、HIV 検査受検に関心がないということであろうと考える。女性、既婚者で主観的なリスクが低かったが、世界的にみるとパートナーを介しての感染リスクは高いことを伝え、感染予防のための行動を促すことを検討する必要がある。

今回の調査協力者のうち、日本での HIV 検査を受検した人ことがある割合は 4.7%であった。同世代の日本人の HIV 検査の受検割合に関するデータがないため、比較は難しいが、平成 23 年に全国の保健所を対象に実施された調査⁴⁾による受検者数 84,404 人であったことをもとに考えると、同世代の日本人よりも受検割合は高いと考えられる。日本で HIV 検査への受検に関心があると回答した者は 55.2%であったことから、対象集団の HIV 検査へのニーズは高い

ことが考えられる。

日本で HIV 検査を受検した要因については、出身国で HIV 検査を受けた経験がある群、日本での HIV 検査が無料匿名で実施されていることを知らない群は、HIV 検査を受検づらいということであった。そのため、HIV 検査が無料匿名で受けられることを日本語学校の学生にもわかりやすく伝えることが重要である。その際、HIV 検査の受検を促進する条件の一つとして本調査の 33%が「通訳や言葉の支援」と回答していたため、言語的なサポート体制を構築することは重要である。

出身国での HIV 検査を受検していることが日本に来てからの彼らの HIV 検査受検に関連があることがわかった。技能実習生の対象分野が拡大するなど、今後、東・東南アジアより、多くの人々が来日することが予想されるため、出身国での HIV 対策を促進し、HIV に関する正しい知識と予防意識を高くした状態で来日できるようにすることが、日本国内での HIV 感染を予防する上で重要であることを示唆する結果と言える。

本調査の結果は、HIV 知識スコアが高くなると HIV 検査を受検する確率が低くなる傾向を示していた。HIV 感染リスクに関する知識から、自らが感染するリスクが低いと考え、受検をしないという可能性が考えられるが、その背景については、更なる研究が必要である。

E . 結論

東京都内の日本語学校に在籍している中国、ベトナム、又はネパール出身の 769 人を対象に HIV の知識、感染リスクに関する意識、HIV 検査の受検状況などについて調べた。HIV の知識については、感染経路などについて正確に伝わっていない点があった。また、無料匿名で HIV 検査が受けられることを周知することや、通訳を含む言語サービスを提供すること、出身国での HIV 対策を強化することが、留学生の日本国内での HIV 検査へのアクセスを向上する

ことに寄与する可能性が示唆された。本調査の結果をもとに、留学生を含む外国人が HIV 検査や治療サービスを利用しやすくするための情報提供やサービス提供のためのプログラムを検討する。

参考文献

- 1) UNAIDS. The GAP Report 2014 (http://www.unaids.org/sites/default/files/media_asset/04_Migrants.pdf, 平成 30 年 3 月 21 日閲覧)
- 2) JASSO 平成 29 年度外国人留学生在籍状況調査等について (http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/_icsFiles/afieldfile/2017/12/27/1345878_01.pdf, 平成 30 年 3 月 21 日閲覧)
- 3) 宮首弘子、北島勉 在日外国人の HIV 検査や医療サービス利用等に関する意識調査 厚生労働科学研究費補助金 (エイズ対策研究事業) 平成 28 年度分担研究報告書
- 4) 加藤真吾 HIV 検査相談体制の充実と活用に関する研究 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業 http://www.phcd.jp/02/kenkyu/kousei_roudou/pdf/kaken_kato_hiv_H23.pdf, 平成 30 年 3 月 21 日閲覧)

F . 健康危険情報

なし

G . 研究発表

なし

H . 知的財産権の出願・登録状況

なし

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし